

津波被害状況マップを公開

— 現地調査した三陸町越喜来浦浜地区 —

「電子国土」上で閲覧

國學院大の
被災家屋の標高など詳細に
吉田教授ら

國學院大学歴史地理学教室の吉田敏弘教授らのグループが、東日本大震災で大きな被害を受けた大船渡市三陸町越喜来浦浜地区の津波被害状況マップをウェブ上で公開している。これまで2回にわたって実施した現地調査の結果をもとに、一般家屋など被災建築物の位置、被害程度、現地写真などを国土地理院の「電子国土」上で閲覧できるようにサイトを構築した。地図上に表示される等高線から被災建築物の標高などを詳細に知ることができ、今後の土地利用や家屋移転検討への活用が期待される。



吉田教授らのグループは今年6月と8月、浦浜地区を訪れ、津波到達ラインに沿って現地調査を行った。

調査では、学生や大学院生ら調査メンバーが被災以前の建物の位置を克明に記した地図を手に津波で被害を受けた家屋や事業所、公共施設の写真を撮影。被災の状況をノートに記録しながら津波被害ウェブ上に公開されている浦浜地区の津波被害状況マップ（被災後空中写真に流失、浸水、被害なし家屋の情報、計曲線、主曲線間曲線を表示）

の実態を確認し、可能な地点では津波の到達高も測定した。

その後、現地調査から得られた被害状況に関する各種情報を国土地理院が提供する「電子国土」（数値化された国土に関する地理情報）を位置情報に基づいて統合し、コンピューター上で再現するサイト（電子国土）上で閲覧できるサイトの構築を進め、今月中旬から正式公開を開始した。

被害状況マップのベースとなる地図・空中写真は電子国土基本図、電子国土画像情報（地図と同様に利用することが可能なオルソ化空中写真Ⅱ昭和49〜53年撮影）、東日本大震災被災後の空中写真の3種類。これらの地図・空中写真に表示できる情報は被害の程度によって「流失Ⅱ赤」「浸水Ⅱ

黄」「被害なしⅡ青」に色分けされた建築物の位置、計曲線（5メートルの等高線）、主曲線（1メートルの等高線）、間曲線（0.5メートルの等高線）、171カ所の調査地点で、マップ中の表示/非表示ボタンにより、情報を切り替えることができる。

各情報は一つの地図・空中写真上に重ねて表示することができ、3種の等高線から、被災した建物の標高、建物に被害を与えた津波の襲来範囲、家屋の標高と被害程度の関係などが分かる仕組みとなっている。

被害状況マップではこのほか、地図中の建物や調査地点にマウスポインタを重ねると住所、標高、建物名（屋号、事業所名、商店名など、一部は非表示）がポップアップで表示される。

さらに、クリック操作により、被災した建物の現場写真、被害の様子を記した撮影メモ、津波の浸水深（いずれも一部は非表示）など、より詳細な情報が掲載されたデータベースのページに移動することができる。

吉田教授らのグループでは「今後の土地利用や家屋移転を検討する際の参考にしてほしい」と被害状況マップの幅広い活用を呼びかけるとともに、「さらに必要な情報の要望や情報の修正個所などがあれば指摘してほしい。それらの情報をサイトにフィードバックし、さらに内容を向上させていきたい」と話している。

被害状況マップ閲覧サイトのアドレスは http://kokugakuin-historical-geography.com/urahama_map.html。推奨ブラウザはWindows版のFirefox、Safari（Firefox7.0.1、Safari5.0.5、Internet Explorer9で動作確認）。